



The Federation of Japan Amateur Orchestras Corp.

発行所:(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
発行責任者:森下 元康

〒441 8028 愛知県豊橋市立花町46 光陽ビル3F
電話(0532)33 6885 FAX(0532)33 6875
e-mail:info@jao.or.jp http://www.jao.or.jp/



vol.54

第32回 全国アマチュアオーケストラフェスティバル大阪大会 水の都 大阪で!! マッテマッセ~

大阪大会実行委員長
松田 齊



大阪大会まで、あと2ヶ月を残すだけとなり、既にご参加の申込み受け付けを終え、これから一番難しい参加者の調整をはじめ、諸準備がいよいよ山場に差し掛かって参りました。

今年のお大阪大会は、大阪市中之島にある大阪国際会議場「グランキューブ大阪」を会場として、8月20日(金)~22日(日)の会期で開催し、最終日の8月22日午後2時より「JAOフェスティバルコンサート in 大阪」の名称のもと、同会議場メインホール(2,700名収容)で、歓迎演奏を含めて4つのオーケストラが、以下のプログラムにより研鑽の技をご披露頂くことになっております。

《歓迎演奏》

JAO大阪フェスティバルオーケストラ

指揮者:西本 智実

ゲストコンサートミストリス:赤松 由夏

独奏者:太田 房江(大阪府知事)

曲 目:スメタナ 交響詩「モルダウ」

モーツァルト ピアノ協奏曲K.537

「戴冠式」第1楽章

フェスティバルオーケストラA

指揮者:栗田 博文

ゲストコンサートマスター:稲庭 達

曲 目:シベリウス 交響曲第2番 二長調

フェスティバルオーケストラM

指揮者:森 悠子

曲 目:チャイコフスキー 弦楽セレナード 八長調

フェスティバルオーケストラB

指揮者:西本 智実

ゲストコンサートミストリス:赤松 由夏

曲 目:ムソルグスキー(ラヴェル編曲)組曲「展覧会の絵」

今回の大会で特筆すべきは、歓迎演奏として開催地の首長(府知事)自らソリストとして協奏曲を演奏して下さることでしょう。

このことは、30回を超えるフェスティバルの歴史の中でも初めてのことであり、恐らく日本のオーケストラの演奏会史上空前のことと言えるのではないかと考えております。

これは偏に、JAO森下理事長と、太田房江大阪府知事との数十年に亘る師弟の絆があったればこそ実現出来たも

のであり、私共としては大会に大きな花を添えて頂いたものと、喜んでおります。

実は、今大会の開催に当たって一番心配しておりましたのは、開催費用の問題でした。これは会場費が従来の大会に比して非常に高かったことや、地元自治体に多くの期待を寄せることが困難であるとの感触があり、こんな状態で果たして大会の費用が賄えるのかとの不安を抱えつつ準備に取り組んで参りましたが、これも連盟の神野会長のご尽力により、大阪の有力企業のバックアップを頂戴し、また(財)大阪21世紀協会からも共催団体として資金やソフト面でのサポートが得られることとなり、参加費の値上げもお願いしたりして、あとはコンサートのチケットが予想通り捌ければ何とかなのではないか、という処まで漕ぎ着けることが出来ました。

去る3月26日には、栗田博文、赤松由夏両先生にもご出席頂いて、在阪報道機関に対する説明会も開催し、大会のPRに努めているところであります。

今回の大阪大会は、私共関西シティフィルハーモニー交響楽団が主管団体を務めさせて頂いておりますが、一昨年の準備段階から大阪府下のJAO加盟6団体(今年から7団体)によりJAO大阪連絡会を立ち上げて、その中で種々協議しながら準備に当たって頂いております。

勿論大会本番も「オール大阪」体制でご参加の皆様のお世話をさせて頂きたいと思っており、今回の大阪大会が多団体による運営のモデルケースとなれるような大会でありたいと願っております。

とは言え、私共これまでの経験も乏しく、また甚だ微力ではございますが、大会ご参加の皆様気持ちよく3日間をお過ごし頂けるよう精一杯勉めさせて頂く所存でございます。

では、8月20日大阪でお会い致しましょう。心よりお待ちしております。



去る3月26日、在阪報道機関への説明(栗田博文、赤松由夏両先生にもご出席頂いて)

高円宮殿下メモリアル 第4回 日本マスタースオーケストラキャンプ

クリエイティブ・カオス(創造的混沌)から生まれた奇跡のアンサンブル

西脇 義訓

第4回日本マスタースオーケストラキャンプは、1月10日から12日までの3連休に東京晴海の第一生命ホール(2001年11月オープン 767席)で開催された。

森下理事長=音楽監督より、今回は弦楽器を対象とするので、音楽監督を補佐して中心となってやるようにとの依頼を受けたのは2年前のことだった。

その日からチャレンジは始まった。

講師は長岡京室内アンサンブル音楽監督の森悠子さんをお願いした。私自身仕事上の関わりがあるので、推薦するのにためらいもあったが、森悠子さん(本人の希望でこれ以後YUKO先生と記す)程、パロックから現代音楽、オペラに至るまで、多彩な現場での実践を通じて音楽の核心に迫った音楽家は、世界でも稀だからである。

曲目は、チャイコフスキーの「弦楽セレナード」と、モーツァルトの「ディヴェルティメント K. 136」の2曲を選曲した。今年没後30年を迎えた故齋藤秀雄は、弦楽合奏がすべての音楽の基本と考え、これらの曲で弟子たちを徹底的に鍛え上げた。そこから小澤征爾、秋山和慶、東京クアルテット、堤剛、岩崎洗、そしてYUKO先生など数多くの音楽家が育ち、世界に飛び立って行った。

参加者が一般公募を含め80人を越し、年齢はマスタースオーケストラということで中高年者層が中心、所属オーケストラはさまざまで、音楽観も技術もばらばら、しかも事前にそれらを把握することは不可能、YUKO先生はアマチュアの指導の経験がほとんどない。こうした条件の中で、どのようにプログラムを組んでいくかは大変に難しい課題であった。

オーケストラにはいろいろなやり方がある。プロ、アマチュアを問わず、指揮者の棒、あるいはコンサートマスター、パートのトップに合わせる、ついていくというのが世界の趨勢だと思う。これに対して今回のキャンプでは「演奏者の自発性、主体性」を基本に据えた。ポウイングは各自が決める、席をセッションごとに自分の意思で変える、



開会式後オリエンテーションをする西脇義訓副音楽監督

しかも隣には同じ楽器の人は極力座らないという、今までの常識とはまったく逆の方法をとったのは、アンサンブルの自発性、しいては独自性(オリジナリティ)を体験し追及する場にしたいという強い思いからである。

どう具体化するかは大きな問題であった。土壇場で中野民夫さん(博報堂のTCC前担当者)の「ワークショップ」(岩波新書)を思い出し、実際に中野さんなどにも現場で指導していただくことで解決できたと思う。

セッション毎の席替えは当然大混乱となるが、「こういう状況をワークショップではクリエイティブ・カオス 創造的混沌」と言うのです」というアドバイスと、YUKO先生の「やってみましょう」精神とが相まって、混乱、混沌をむしろ楽しむ雰囲気ができ、誰も経験したことがない奇跡とも思えるアンサンブルが実現した。その響きはホール隅々まで溶け込み、輝きと貴品に満ちあふれていた。

プロを目指す若い世代の男性4人に加わってもらったことも、今回のキャンプのもうひとつの特色である。彼らはうれしいことに本格的にプロのクアルテットを目指すことをこのキャンプの直後に決めた。

大会3日目には、高円宮妃殿下もキャンプをご覧になり、励ましの言葉をかけていただいたのも幸せであった。

キャンプの様子は「音楽の友」などのメディアでも紹介されたが、今回のキャンプは、日本から世界を変える第一歩になるような予感がする。

8月の大阪のフェスティバルではチャイコフスキーを演奏することになっている。今度はどのようなクリエイティブ・カオスが巻き起こるか楽しみである。



最初は2グループに分かれ、向かい合って練習開始

4th Japan Masters Orchestra Camp

「第4回 日本マスターズオーケストラキャンプ」に参加して

「アレッ！
長岡京室内アンサンブルで弾いてる??？」

ワグネル・ソサイエティ・OBオーケストラ
若尾 裕久(Vn2)

久しぶりに会った悠子先生は、相変わらずエネルギッシュでチャーミングだった。

遺影でご参加の故高円宮様を含む80名以上の仲間は、世界で活躍する悠子先生の指導で、中野氏(博報堂)提唱のファシリテーション技法を取り入れた西脇氏(JAO副理事長)の類まれなるアイデアを軸に、3日間のキャンプで素晴らしい音作りに挑戦した。

本番の弦セレ2楽章でVn2がVcとメロディーを弾く時は、ステージの上手に位置するCb:長谷川嬢(長岡京室内アンサンブル)のピチカートに支えられ、視野に入りきらない主要メンバーと意識の上でのコンタクトを取りつつ、自分が「長岡京室内アンサンブル」で弾いているような錯覚に陥っていた。自らが冷静さをやや欠いていたかもしれないが...



練習風景、中央が筆者の若尾裕久さん

開始前の懸念

参加者にとって「ポウイングは自分流」「譜面台は1人1台」「Vn1, 2両方弾ける様にしていっちゃい」「シーティングは決めません」は今までの常識を覆す条件であったと思う。しかし此处には「個人の主体性を尊重する精神」が満ちており、これは中野氏の著書『ワークショップ』で語られる大切なキーワードである。

シーティングやグルーピングにも主催者や演奏スタッフからいろいろな意見が出たのは当然であるが、悠子先

生の口癖「やってみましょう...」の精神がこのキャンプを支えた。

キャンプ活動あれこれ

・自分掲示板 貴重な情報源であるので、有効活用が次回の課題では...

・JAO東京オケ方式ウォーミングアップ(スケールと簡単なハーモニー)の採用
悠子先生のポウイングに重点をおいた指導は、上品で透明な音作りに効果的

・シーティング 基本的に全席自由で、同じ楽器のそばをできるだけ避ける

1 車座アンサンブル

悠子先生を中心に舞台を二分割や四分割にして自由自在

2 回れ右アンサンブル

壁が目の前の人は目を白黒

3 本番型アンサンブル

客席優先、トップは固定で残りはアトランダム

セッションごとの組み替えは、最初こそ参加者に戸惑いを感じられたが、次は何処で弾こうかと楽しむ人も出てきたので、時間の経過とともに違和感が薄れたと思う。但し最後まで後列を希望する人がいたのはやむを得ないが...

・JAO東京オケ方式分奏

参加者全員を4つのチームに分割し、今回特別参加の最近桐朋学園を卒業した若手のカルテットのメンバーを、それぞれファシリテーター



背を向け合って、周りの人の音をよく聞いて

4th Japan Masters Orchestra Camp

「第4回 日本マスターズオーケストラキャンプ」に参加して



情熱あふれる森悠子先生の指導

ターとして、チーム別の練習を実施した。小グループ化の実践により、全体では控えていた人の発言が聞けて大変有効であった。

参加者の「心」とこのキャンプの成果

このキャンプを通じて参加型ワークショップを体験したわけだが、中野氏の著書『ファシリテーション革命』にある次の言葉は、参加者の「心」を語っているであろう。

人は本来、関わりたいのではないだろうか。皆、根っから無気力なわけではない。やりがいがあり、楽しくて、自分が認められ、大切に扱われるなら、誰だって関わりたいのだ。

同時に、我々が直面している現在社会は従来のピラミッド社会からIT主導のウェブ社会に変貌しつつあるが(同著書から)、このウェブ社会での過ごし方を今回のキ



練習を重ねるごとに団員の集中力が増していった

ャンプ参加者全員で共有したといっても過言ではない。

全身全霊をこめて指導して下さった悠子先生の今後のご活躍を祈り、JAO関係者の並々ならぬご厚意に深謝し、次回「長岡京で弾いている - 真夏の夜の夢 - 」を楽しみに...

《参考文献》

『ファシリテーション革命』

中野民夫著(岩波アクティブ新書)

『ワークショップ』 中野民夫著(岩波新書)



森悠子先生を囲んで宮田さみ子さん(左=目黒区民響)、田中容子さん(習志野フィル)



休憩中にも、個人レッスンが始まったコントラバス

4th Japan Masters Orchestra Camp

「第4回 日本マスターズオーケストラキャンプ」に参加して

「全身を耳にして弾くということ」

一般参加（明治大学OB交響楽団）
大貫 かおる

私は大学のオーケストラでチェロをはじめたアマチュア奏者である。大学卒業後も、市民オケ、弦楽合奏、室内楽など23年間チェロを仲間とともに楽しんできた。2泊3日のこのキャンプでの、森悠子先生の弓の歴史の講義を含めた指導は素晴らしい、私のアマチュア人生の転機になるような実にエキサイティングな3日間だった。

最初に練習場であるホール舞台の椅子配置に驚く。参加者83名の椅子が舞台上に渦巻き状に並んでいる。舞台上で観客席に向かって座るのがAオケで、舞台の後ろに向かって座るのがBオケだという。（円状になっているので、AオケとBオケはつながる。）しかも、座るときは同じパートの人とは隣り合わないよう座るようという指示だ。

コンサートマスターもいない、パートリーダーもいない、隣は別パート、譜面台も一人一つでボーイングもまったく決めずに80名が合奏するとは！今回のマスターズキャンプの仕掛け人の西脇さんも森悠子先生も「世界初の試みです！」とおっしゃっていたが、一方で西脇さんは「僕は原点に戻ただけだと思っている」ともおっしゃる。しかし、これが原点だとしたら、巡り巡って一番新しいではないか。

音階と和声の基本練習のあと、課題曲のチャイコフスキーの“弦楽のためのセレナーデ”とモーツァルトのK. 136の2曲を3日間にわたって合奏練習で取り組んだのだ。とにかく他のパートを良く聴くことを徹底的に。それから、森先生は曲のイメージについて、かなり具体的な情景を言葉にされる。そのイメージを与えられた後の音楽の生きの



同じパートの人が隣同士にならないように、そして奇跡のアンサンブルが...



ご夫妻で参加された大貫健治さん、かおるさん

いいこと！今回のイメージ作りは先生だけれど、本当はこのイメージを創ることも自分たちで楽しみながらするべきことなのだと思う。

そして、合奏練習の圧巻は“全員後ろを向いて、視覚を頼らないで、呼吸と耳だけで合わせて”という指示のもと弾いたこと。私の場合、まさに前は壁。多くの方は他の人の背中をみて弾くことになる。円弧にいて外を向いて座っているのだから、隣もよくは見えない。しばしの沈黙のあと、悠子先生の呼吸の音でチャイコフスキーのワルツが始まった。ホールにはある種の気が満ちたようになって、全員が異常なほど集中し、合奏はかなりの精度で進む。私は後ろからの音に包まれるようにして弾いたが、不思議な感覚だった。一人で弾いているようであり、しかし合奏の一部。終わったとき、悠子先生が“すごい、すごい、できるじゃない！”と大感激してくださる。

イメージでいうと、舞台上一人で弾いているような感じもあるが、しかしアンサンブルをしているわけなので、カルテットの中で弾いている感覚に近い。自分が主体性を持って、思い切って弾くしかない。呼吸を意識しながら、全身を耳にする。周りの音を聴いてその上で自分もその一部となるように弾く。カルテットや少人数の弦楽合奏では体験したことはあるけれど、80人でとなると信じられない思いだ。事実、悠子先生も“奇跡がおきましたね”とおっしゃっていた。このマスターズキャンプの第2弾である今年の夏の大阪でのフェスティバルが待ち遠しい。

最後に、先生をはじめ他にも企画、事務連絡、会場手配、機材の確保、照明、警備のことなど、いろいろな方の善意に支えられての3日間だったことを忘れずにいたいと思う。ありがとうございました。

4th Japan Masters Orchestra Camp
「第4回 日本マスタースオーケストラキャンプ」



モデルカルテット、左から岡田鉄平、小林将、生野正樹、武井英哉の各氏



カルテットの指導風景



ボウイングの指導に習字(?)も登場



高円宮妃殿下と参加者が親しく懇談した



熱をおびる森悠子先生の指導



アメリカ・シカゴから駆けつけてくれたアシスタントの長谷川順子先生



閉会式では来年の再会を誓い合った



閉会式で講評を述べる森下元康理事長(音楽監督)

島田フィルハーモニー管弦楽団

Shimada Philharmonic Orchestra

プロフィール

静岡県の特産物「お茶」「バラ」の産地であり、「文高島田」で知られる島田市に「島田フィルハーモニー管弦楽団」が誕生したのは、2001年5月、定期演奏会を年に1回、又「島田市民音楽祭」「島田市民文化祭」にレギュラー出演し、依頼演奏も行っていきます。「熱気のあるオーケストラ」として市民の方に親しんでいただいています。

指揮陣

2003年8月より「東京フィルハーモニー交響楽団・アドバイザー」飯塚一郎先生が当管弦楽団の顧問に就任され、指揮者1名、弦楽器トレーナー1名、コンサートミストレス1名の体制で現在に至っています。

楽 団

団員は総勢40名、楽器の極人から初心者まで、幅広い職業、年齢層が集まりアット・ホームでホットな雰囲気の中オーケストラです。

現在オーケストラを更に大きくしようと、初心者でも大歓迎で団員を募集しています。(全ての楽器で、募集しています)

練習会場

島田市民会館を中心に、月3回日曜日の午後、練習しておりますが、楽団所有の楽器がゼロというところが悩みの種です。ど



交野シティ・フィルハーモニック

Katano City Philharmonic

交野(かたの)市は大阪府の北東部、奈良県との境に位置する美しい自然とロマンチックな七夕の伝説に彩られた小さな町です。交野シティ・フィルハーモニックはこの地で1998年6月に誕生しました。わずかな人数で始まったこのオーケストラも7年目を迎えた現在では、20代から60代まで幅広い年代の約60名のメンバーを擁するまでに成長しています。

99年7月に第1回の定期演奏会を行って以来、年に1回の定期演奏会を中心に、また一方でクリスマスコンサートや地元の小中学校での公演など地域に根ざした演奏活動も大切にしながら練習を続けています。2003年5月には、地元でメンバーを募集した合唱団とともに交野の地では初めてとなる「第九」の演奏を行いました。

発足当時から常任指揮者をつとめる木村俊明先生は元大阪フィルハーモニー交響楽団のコントラバス奏者で、ご自身の経験にもとづいた楽しいお話を交えながら練習を進めてくださいます。交野フィルがここまで成長できたのは、何よりも「音楽を楽しむこと」を大切にされる先生のご指導のおかげだと考えています。

また、「オケの上達のためにはコンチェルトをやるべきです」という先生のお考えにもとづいて第4回定期からはプログラムに協奏曲を取り上げるようになりました。第5回定期ではオーケストラ・アンサンブル金沢からトロイ・ゲーギンズ氏をお迎えしてメンデルスゾーンのパイオリン協奏曲ホ短調を演奏、さらに2004年9月の第6回定期演奏会には、交野出身のピアニストで2000年のショパンコンクールに入賞された佐藤美香さんをお迎えする予定です。

なたかティンパニー・コントラバスの寄付、または格安でお譲りいただける方、いらっしゃいませんか？

最近の演奏活動、及び予定

第2回定期演奏会

2003年12月7日(日) 島田市民会館

指揮：太田島 篤

曲目：シューベルト ロザムンデ序曲

シューベルト 交響曲第8番「未完成」

ベートーヴェン 交響曲第3番「英雄」

第3回定期演奏会

2004年10月3日(日) 島田市民会館

指揮：太田島 篤 ピアノ独奏：富田 徳子

曲目：R.ワーグナー 楽劇「ニュルンベルクのマイスター・ジンガー」

グリーク ピアノ協奏曲イ短調

ベートーヴェン 交響曲第5番「運命」

お問合せ先とホームページ

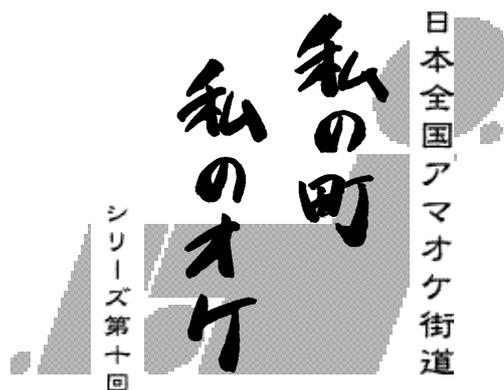
島田フィルハーモニー管弦楽団

〒472-0011 静岡県島田市東町928-6 (甲賀方)

Tel. 054-647-3550

ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/MusicHall-Horn/9486/>



熱心かつ優秀な「宴会部長」を擁する交野フィルでは、毎年夏に行われる合宿(宴会付き)年に数回企画される懇談会(飲み会)や忘年会などメンバー相互の親睦のための行事も演奏と並んで欠かすことのできない楽しみです。これからもこの交野の地に根を下ろし、地域の人たちに愛されるオーケストラとなれるよう取り組みを続けて行きたいと考えています。

今後の演奏会

第6回定期演奏会

2004年9月19日(日) いずみホール(大阪市中央区城見)

指揮：木村 俊明 ピアノ：佐藤 美香

曲目：ブラームス 交響曲第2番二長調

グリーク ピアノ協奏曲イ短調 他

お問い合わせ

〒576-0034 交野市天野が原町1-20-3 (中井方)

Tel/FAX. 072-892-7309

ホームページアドレス <http://www.hi-ho.ne.jp/nabesan/>



超満員の演奏会！！

～涙で終わった神奈川キャンプ～

去る3月25日から28日まで神奈川県湘南国際村センターにてTYOCが開催され、最終日には横浜みなとみらいホールにて演奏会が行われた。ほぼ満席の観客に見守られ、参加者たちは、研修の成果を遺憾なく発揮し、すばらしい演奏会となった。



2年間の任期を終えて

第8期TYOC運営委員長 鈴木 肇

長く厳しかった委員長という立場でのTYOCも終わりました。終わってしまうととても寂しく思っています。この2年間いろいろな方に助けていただき心から感謝しております。今回のTYOCは委員長を務めたせいか本当に心に残るものとなりました。TYOC開催期間前からたくさんの準備を進め、一日目を迎えた時には「ついに今から始まるのか」という気持ちが溢れ、一人で思いを高ぶらせていました。そして、始まってしまえばあっという間に最終日となり、たった一度のオーケストラを構成したメンバーとお別れることになることを思い、ひたすら悲しみをこらえていました。それでもオーケストラのメンバー全員との最後の合奏を精一杯楽しみました。

思えばこの2年間は自分の人生を決める上でも大切な時期であり、大学生活も忙しい毎日でした。しかし、このTYOCにかける思いは強く、そんな私をたくさんの方が支え

てくれこのような成功が収められたのだと思います。また、今後の人生においても今回の経験はとても自分のためになるものだと思います。

今回のTYOCに参加した皆さんも、ここでの出会いを大切に、短い時間ではあったけれども、共に過ごし、感動を共有した時間を忘れずにどうかこれからの生活をより豊かなものにしていてください。

最後に、このTYOC藤沢大会に関わった皆様、本当にこれまでお疲れ様でした。ありがとうございました。



「第19回、20回トヨタ青少年オーケストラキャンプを終えて」

第19回、20回トヨタ青少年オーケストラキャンプ 実行事務局長 村岡 一恵

3月28日横浜みなとみらい大ホールに鳴りやまぬ拍手の中、コンサートは終了しました。

参加者のみなさん、本当におめでとうございます。今も目を閉じるとアンコールのバンドの光景が目にかびます。

そしてキャンプをリードし続けた運営委員のみなさん、2年間本当にごくろうさまでした。

私は多くのことを貴方達から学ぶことが出来ました。ありがとうございます。

藤沢ジュニアオーケストラは、ホストオーケストラとして2000年8月から会場探しを始めましたが、なかなかみつからず、湘南国際村センターに皆さんをおむかえする事が決定した時の喜び、又同時に講師の先生方と同じ場所で宿泊、練習する事が可能と分ったときの事を思い起す時、会場担当の方や実行委員に改めて感謝の気持ちでいっぱい

す。本当によかったと思います。

運営委員の事前会議に参加し、やろうと思えば必ず出来るという可能性にむかって話し合い、それをすべて実現してしまう行動力に感動、又練習が始まると一人一人が目を輝かせて音楽を作り上げて行く姿をキャンプ中毎日正面からながめ、胸が熱くなる思いがしたのは私だけではないと思います。

宮崎からうけつぎ、神奈川でキャンプを終え、豊橋へバトンタッチしました。

参加してよかったという思い出をそれぞれの地元の団へ持ち帰って下さった事と思っています。

共催していただきましたトヨタ自動車株式会社をはじめ講師の先生方、そして多くの方々に支えられての成功を感謝しつつ幕を閉じたいと思います。

PHOTO GALLERY



フルートパート練習



運営委員の勇姿



総合練習でのチェロパート



トロンボーンパート練習



パートリーダーミーティング



打楽器パート練習



チューバパート練習



コントラバスパート練習



1st パート練習



渡邊先生の指示を聞き逃さないように



お食事風景



仲よし2ndパート



ゲネプロ



閉会式で号泣

《企画アンケート集計結果》

運営委員会が、現時点で回収出来た企画についてのアンケート 118 枚の集計結果をコメントと共にまとめます。(小久保)

1、企画の内容はどうでしたか？

内容：良かった	74	普通	39	良くなかった	5
時間：長かった	21	普通	75	短かった	22
司会：良かった	99	普通	16	良くなかった	3

意見

司会が良かった。上手かった。企画のアイデアがよかった。楽しかった。面白かった。友達の今まで知らなかった事が知れてよかった。景品が実用的でよかった。かわいかった。短く感じた。去年よりいい。去年の方がいい。身内ウケ、内輪ウケのところがあり、ついていけないところがあった。豊橋の人が多かったのが気になった。みんなの立たない時がちょっと…。長すぎ。練習したかった。司会者のオンステージになりすぎていた。景品をもっと豪華に！。じゃんけん列車じゃなくてよかった。伊藤君に司会をやらせてみては？立ち上がりにくい質問が多かったので、もっと明確な特徴にした方がよかった。種類を増やして欲しい。みんなのノリが悪かった。もっと幅広い交流がしたかった。もう少し早く終わって自由時間が欲しかった。

コメント

内容：やはり豊橋の人が多かったのが気になるそうです。気付かないうちに司会が身内を選んでしまっていたのかもしれない。前につれてくる人は司会だけが選ぶのではなく、他の人がやればもう少し偏りなく紹介できたのではないかと思います。

時間：やはり1時間が適当だと思います。でも交流の企画をした後は、交流する時間が必要なのでは？とも思います。確かに少し話す時間があれば企画をやった意味がもっと出てくるのではないのでしょうか。

司会：やはり司会が目立ちすぎました。小久保君が司会だったので楽しかった、という意見は多かったです。それでは「企画が楽しかった」ことにはなりません。せめて一人でなく、二人で司会をやればよかったかと思えます。

2、来年も企画は必要ですか？

はい	102	いいえ	1	どちらでもよい	15
----	-----	-----	---	---------	----

意見

気分転換になる、息抜きになる。先生方にも参加して欲しい。終わった後30分くらい話す時間が欲しい。セレ

モニークションに任せる。景品欲しい。小久保君が卒業したらどうなるのでしょうか？一年目はあった方がいい。皆疲れているのでやるならもっと短く。内容による。練習したい。

コメント

やはり必要だという意見が多かったと思います。しかし「内容による」という意見もありました。サロンコンサートとかならやりたい、という人もいれば交流になる企画なら、という人もいます。多数は後者ですね...。「先生方にも...」という意見は多分サロンコンサートという意味ではなく、一緒に遊びたいという意味だと思います。先生と親しくなる機会を作ることが大切かもしれません。

3、どのような企画を望みますか？（複数回答可）

楽しめる企画 79 勉強になる企画 13 交流になる企画 67

意見

今回のようなもの。もっと色々な人と友達になりたい。みんなの名前が知りたい。かわいい子と仲良くなりたい。紹介して欲しい。弦と管の交流がしたい。部屋、パート

以外での交流がしたい。自己紹介カードとか作って交換。参加者同士が会話できるような企画。チーム戦とか（パート対抗）。勉強の企画だと寝てしまうので楽しめるのがいい。癒し系の企画（？）. ルールが簡単なゲーム。サロンコンサートとか。有志でグループ組んで、アンサンブルの発表会。楽譜を用意して初見大会。

コメント

やはり「楽しめる、交流」のこの二つとも丸をつけた人は多かったです。一つしか選べないと思って、楽しめるに丸をうって「交流もしたい」って書いた人も多かったです。でも疲れている人がほとんどなので、静かに楽しめるものもいいですね。そういう意味では今年の企画はとてよかったですのではないのでしょうか。勉強になる企画という観点からも今後考えていきたいと思います。

以上です。かなり参考になりました。ここには載せてませんが、「楽しい企画をありがとうございました」とか「毎年ご苦労様です」とか書いてくれた人がたくさんいました。セレモニークションのメンバーにとってこれほど嬉しいことはありません。ご協力ありがとうございました。



第21回TYOC
運営委員会 運営委員長 入谷 敏充

今回のクールのTYOCは、僕にとって非常に内容の濃いものでした。19回の時、初めてセクションチーフを経験した僕は、その仕事の難しさと、量の多さから、ただやりこなすだけで精一杯でした。また、運営委員の選出方法も従来とは異なり、各団から新しい運営委員を選出してもらう方式をとっていたため、どれくらい自分のセクションの人に仕事を任せられるのかが分からず、結果的に上手に作業分担することができませんでした。このことは19回の大きな反省点でもあり同時に大切な経験となりました。今年はその効果もあって、全体的に余裕をもって自分の仕事ができたと感じます。その中でも最も僕の印象に残っていることは、新しく運営委員に加わった仲間の成長です。今年ほとんどの仕事に各担当を決め、議事録の作成も担当者に任せるといった形を取りました。その結果、19回ではあまり見られなかった「運営委員が、別の運営委員に指示を出す」という場面を何度も目にすることができました。これは彼らにとって大きな成長の第一歩であり、同時に僕にとっても作業分担の必要性を学ぶいい機会だったと思います。また、一方で多くの大人の方々と接する場面が多く、それにより「社会において仕事とはどういうものなのか」ということを少し知ることができた気がします。このことは今後の僕の人生できっと役に立つことでしょう。TYOCからこれほど多くのことを得られて僕はとても幸せです。改めて音楽のすばらしさを実感できた2年間でした。

来年は運営委員長という立場でTYOCに参加させていただくことになり、嬉しく思う反面、不安もあります。今年のようにいい雰囲気での運営委員会ができるのか、自分の仕

事をしっかりこなせるか等、気になる点を挙げればきりがないくらいです。でも僕にはこの2年間で得た経験があり、何より運営委員をはじめとする素晴らしい仲間がたくさんいます。彼らと共に、今回のような感動的で参加者それぞれが実りのある内容になるよう、また例年とは異なる独特な何かを取り入れ、新しい経験ができるようなTYOCになるよう努力していきたいと思います。

【編集後記】

- ・いろいろな方に助けていただいたの編集となりました。この神奈川キャンプは、最後の最後まで人に迷惑をかけてしまったなあと思っています。また、写真を見てみるとあの時の感動がよみがえってきて泣きそうになってしまいます。今回本当にいいキャンプでした。みなさんありがとうございました。（鈴木）
- ・企画のアンケートまとめました。いろいろな意見があり、今後企画を考えるうえでとても参考になります。よりよい企画にしていけるために運営委員も頑張っていきますので、みなさん期待してくださいね。（小久保）
- ・こうしていろいろ振り返ってみると、この2年間は自分にとってとても貴重な時間だったように思います。そんな貴重な時間をすてきな仲間と共有できたことは僕の一生の思い出です。どうもありがとうございました。（入谷）

JYJ 編集部

編集長 鈴木 肇
編集員 小久保 有 入谷敏充

第19回の理事会、総会が5月22日に東京上野「精養軒」にて開催された。当日は全国から約70の会員が集まり、平成15年度決算案や2005年度トヨタコミュニティコンサート応募要項について活発な討議がなされた。特に今回はトヨタコミュニティコンサートの改革案について検討するため、通常より1時間多く時間をとり、会員の意見を交換した。なお平成15年度決算案は原案通り可決承認された。(別掲)

収支決算書

自平成15年4月1日
至平成16年3月31日
(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
I 収入の部			
1 基本財産運用収入	(35,000)	(29,968)	(5,032)
基本財産利息収入	35,000	29,968	(5,032)
2 入会金・会費収入	(10,240,000)	(10,190,000)	(50,000)
入会金収入	30,000	30,000	0
正会員会費収入	7,500,000	7,450,000	50,000
賛助会員会費収入	2,680,000	2,680,000	0
3 事業収入	(8,820,000)	(8,933,650)	(113,650)
全国大会事業収入	3,300,000	3,294,000	6000
青少年キャンプ事業収入	3,700,000	3,819,650	119,650
マスターズキャンプ事業収入	820,000	820,000	0
機関誌発行等事業収入	1,000,000	1,000,000	0
4 補助金収入	(38,030,000)	(36,600,389)	(1,429,611)
地方公共団体補助金収入	2,300,000	2,300,000	0
民間助成金収入	35,730,000	34,300,389	1429,611
5 雑収入	(403,000)	(424,240)	(21,240)
受取利息	3,000	1,040	1,960
雑収入	400,000	423,200	23,200
当期収入合計(A)	57,528,000	56,178,247	1,349,753
前期繰越収支差額	10,135,965	10,135,965	0
収入合計(B)	67,663,965	66,314,212	1,349,753
II 支出の部			
1 事業費	(39,587,000)	(38,523,808)	(1,063,192)
臨時雇用資金	450,000	465,000	15,000
福利厚生費	6,837,760	6,747,922	89,838
会議費	540,000	554,150	14,150
旅費交通費	9,307,930	8,857,069	450,861
通信運搬費	1,562,500	1,840,627	278,127
消耗品費	573,000	519,703	53,297
印刷製本費	1,875,252	1,859,389	15,863
賃借料	7,854,750	7,628,912	225,833
損害保険料	217,700	247,740	30,040
諸謝金	7,551,218	7,228,272	322,946
広告宣伝費	1,155,000	1,158,864	3,864
雑費	1,661,890	1,416,158	245,732
2 管理費	(16,378,000)	(17,526,215)	(1,148,215)
役員報酬	4,800,000	4,800,000	0
給与手当	1,000,000	1,000,000	0
諸謝金・臨時雇資金	600,000	600,000	0
福利厚生費	30,000	0	30,000
会議費	1,600,000	2,073,840	473,840
旅費交通費	2,200,000	2,820,884	620,884
通信運搬費	900,000	994,129	94,129
消耗品費	600,000	584,790	15,210
渉外費	50,000	12,600	37,400
印刷製本費	780,000	780,054	54
光熱水料費	200,000	203,925	3,925
賃借料	2,740,000	2,752,912	12,912
災害保険料	6,000	5,590	410
租税公課	22,000	21,400	600
雑費	850,000	876,091	26,091
3 特定預金支出	(1,260,000)	(1,260,961)	(961)
基本財産積立金	60,000	60,000	0
特定預金積立支出	1,200,000	1,200,961	961
4 予備費	0	0	0
当期支出合計(C)	57,225,000	57,310,984	85,984
当期収支差額(A)-(C)	303,000	1,132,737	1,435,737
次期繰越収支差額(B)-(C)	10,437,965	9,003,228	1,435,737

編集部
余波

蒸し暑い日が続きますが皆さんいかがお過ごしでしょうか。今回から編集に参加する事になった新人編集員でございます。今回、先達のH編集員の心強い手助けを借りてなんとか発行まで漕ぎ着けました。しかし、次号は、前回まで数年間に渡り本誌の編集に携わってきたT編集員が「長年の夢をかなえさせて」とフェスティバルの参加者に变身。H編集員は、なんともめでたい

ことに長男誕生で、編集どころの騒ぎではないと戦線離脱。という状況で、不安の日々を送っています。

「不安」というのは、心の状態を表す言葉で、手元の国語辞典によると 良く無い状態に対する恐れに対して支配され、落ち着かない様子 という意味で、マイナスイメージが思い浮かぶ言葉ですが、他にも心情を表す沢山の言葉がありますよね。ところで、心の状態といえば我々も演奏に際して、様々な感情に出会います。先述の「不安」もそうですが、「感動」、「戸惑い」、「興奮」、「焦り」、「喜び」、「緊張」etc。私には、演奏をしている時に会おうこれらの雑多な感情は、普段の日常生活で会おう感情と比べ、異質な物だと思えるのですが、皆さんはいかがでしょう。

ところで、合奏曲は何種類ものパートから成り立っていて、各パートは同じ部分を演奏していても全くことなった感情を持って進んでいきますよね。私、この状況ってすごい事だと思うのですよ。まるで有機交流電灯のまたたきの様です。奏者それぞれの心象風景を伴って音の海の中を航行していく旅の様です。普段の生活から、異次元にするりと入り込んでしまえる音楽って本当に素晴らしいものだと思います。

トヨタは、全国で23年1000回を数えるトヨタコミュニティコンサートなごアマチュア音楽活動をはじめ、美術、演劇など幅広い分野で地域に根ざした文化活動を応援しています。みんなが、もっとワクワクドキドキするために、トヨタは、いっしょに歩んでいきます。



トヨタは、全国で23年1000回を数えるトヨタコミュニティコンサートなごアマチュア音楽活動をはじめ、美術、演劇など幅広い分野で地域に根ざした文化活動を応援しています。みんなが、もっとワクワクドキドキするために、トヨタは、いっしょに歩んでいきます。